

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

生物多様性とは

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。

地球上の生きものは、長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化してきました。現在、地球には3,000万種ともいわれる多様な生きものがいます。

これらの生命は一つひとつに個性があり、すべての

生きものは、お互いにつながり合って、支え合って生きています。私たちは、暮らしに欠かせない水や食料をはじめ、さまざまな生物多様性の恵みを受け取っています。生物多様性豊かな自然は、私たちの命と暮らしを支えているのです。

知っていますか？生物多様性の危機

人の活動による影響が主な要因で地球上の種の絶滅のスピードは自然状態の約100～1,000倍にもなっています。国内でもたくさんの生きものが危機に瀕しています。日本の絶滅危惧種は3,634種です。(海洋生物を除く。)

木津北地区に生息する貴重な生き物



カスミサンショウウオ



京都府レッドデータブック
：絶滅寸前種
環境省レッドリスト
：絶滅危惧Ⅱ類
全長 オス87～105mm程度
メス91～101mm程度

主に低地から丘陵にある湧水や田園の周囲にある二次林や竹林・草原に生息します。普段は浅い土壌中や落葉・倒木・石などの下に潜み、昆虫・クモ・ワラジムシ・ミミズなどを捕食します。府の条例で、許可のない捕獲が禁止されています。鹿背山倶楽部では許可を受けて観察を続けるとともに、繁殖に必要な水環境と、成体や幼体の生息場所となる周辺環境を保全しています。

オオタカ



京都府レッドデータブック
：絶滅危惧種
環境省レッドリスト
：準絶滅危惧
全長 オス50cm程度
メス57cm程度

翼を開いたときの大きさは、約105cm～130cm。繁殖期にはアカマツ林を営巣地とすることが多く、非繁殖期には河川敷や都市の緑地などに広く出現し、孤立林と狩場に適当な農耕地に続く林縁部がセットになっている点が重要と考えられています。

生きものを絶滅させないために、みんなのできること

- 1 身近な自然に関心を持って、自然の中でそっと生きものを観察しよう。
- 2 絶滅の恐れのある生きものを捕まえたり、飼ったりしないようにしよう。
- 3 ペットや外来種を自然の中に放さないようにしよう。
- 4 森や川などに出かけたときは、ゴミは全て持ち帰ろう。
- 5 野生の生き物に餌を与えたり、触ったりしないようにしよう。

里山へGO！（里山活動に参加してみよう）

鹿背山で里山活動をしたいと思っても、木を切ったり、農作業をしたことがない人にはなかなか参加しづらいですね。

現在、鹿背山では9つの団体が、鹿背山城の景観を保全したり、里山資源の持続的な活用や特産の柿の生産技術を伝承しながら恵みを分け合ったり、放置水田を耕してカスミサンショウウオの居場所を整備するなどさまざまな活動が進められていますので、まずは活動を見学することからはじめてみませんか。

気になる活動があれば、気軽に連絡ください。

木津北地区保全推進室（都市計画課内） ☎ 75-1222 ✉ kizukita@city.kizugawa.lg.jp